

表 5.1 総合的評価（調査を行った項目に係る現況、予測及び影響の分析）

項 目	現 況	予 測	影響の分析																																																															
大気質 （煙突排ガスの排出）	①現況大気質（一般環境大気質監視局） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>二酸化硫黄</th> <th>二酸化窒素</th> <th>浮遊粒子状物質</th> <th>ダイオキシン類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単位</td> <td>ppm</td> <td>ppm</td> <td>mg/m³</td> <td>pg-TEQ/m³</td> </tr> <tr> <td>年平均</td> <td>0.001</td> <td>0.014</td> <td>0.033</td> <td>0.0054</td> </tr> </tbody> </table> 注：年平均は、日平均値の2%除外値又は98%値。ただし、ダイオキシン類を除く。 ②自然的条件及び社会的条件 <ul style="list-style-type: none"> ・気象要素（二戸 1981-2010）：年平均気温 9.7℃、年降水量 1010.9mm、平均風速 1.7 m/s 風向 1年を通し、SW～WSW が卓越 ・施設は、低山地の尾根付近に立地している。 ・施設周辺 1km の範囲では、大部分が樹林である。他に水田、畑が小分布する。 ・施設に近接して住居はなく、最も近い住居は、施設の北側約 1 km にある。 ・周辺に大気汚染の固定発生源はなく、交通量の多い道路も離れている。 ・施設及びその周辺は、大気質の環境基準が適用される。 	項目	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	ダイオキシン類	単位	ppm	ppm	mg/m ³	pg-TEQ/m ³	年平均	0.001	0.014	0.033	0.0054	①予測方法 プルーム式及びパフ式による長期平均濃度の算定 ②予測対象 二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素及びダイオキシン類 煙源から 5000m の範囲。卓越風向の風下。 ③予測結果 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>対象施設寄与分</th> <th>バックグラウンド</th> <th>予測値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄</td> <td>0.0000163</td> <td>0.001</td> <td>0.00102</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>0.0000876</td> <td>0.014</td> <td>0.0141</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>0.0000498</td> <td>0.033</td> <td>0.0330</td> </tr> <tr> <td>塩化水素</td> <td>0.0000137</td> <td>—</td> <td>0.0000137</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類</td> <td>0.000744</td> <td>0.0054</td> <td>0.00614</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	対象施設寄与分	バックグラウンド	予測値	二酸化硫黄	0.0000163	0.001	0.00102	二酸化窒素	0.0000876	0.014	0.0141	浮遊粒子状物質	0.0000498	0.033	0.0330	塩化水素	0.0000137	—	0.0000137	ダイオキシン類	0.000744	0.0054	0.00614	①影響の回避・低減措置 <ul style="list-style-type: none"> ・燃焼ガスを 800℃、1 秒間保持する。 ・燃焼後は、200℃まで急冷する。 ・排ガス中の酸性物質は、アルカリ材で中和する。 ・バグフィルタにより、ばいじんを除去する。 ・燃焼状態監視のため、排ガス温度及び一酸化炭素濃度を常時測定する。 ②生活環境保全目標との整合性 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>予測値</th> <th>環境保全目標</th> <th>適合性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄</td> <td>0.00102</td> <td>0.04 以下</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>0.0141</td> <td>0.04 以下</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>0.0330</td> <td>0.1 以下</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>塩化水素</td> <td>0.0000137</td> <td>0.02 以下</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類</td> <td>0.00614</td> <td>0.6 以下</td> <td>適合</td> </tr> </tbody> </table> 上表に見るように、予測値と環境保全目標に整合性が図れている。	項 目	予測値	環境保全目標	適合性	二酸化硫黄	0.00102	0.04 以下	適合	二酸化窒素	0.0141	0.04 以下	適合	浮遊粒子状物質	0.0330	0.1 以下	適合	塩化水素	0.0000137	0.02 以下	適合	ダイオキシン類	0.00614	0.6 以下	適合
項目	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	ダイオキシン類																																																														
単位	ppm	ppm	mg/m ³	pg-TEQ/m ³																																																														
年平均	0.001	0.014	0.033	0.0054																																																														
項 目	対象施設寄与分	バックグラウンド	予測値																																																															
二酸化硫黄	0.0000163	0.001	0.00102																																																															
二酸化窒素	0.0000876	0.014	0.0141																																																															
浮遊粒子状物質	0.0000498	0.033	0.0330																																																															
塩化水素	0.0000137	—	0.0000137																																																															
ダイオキシン類	0.000744	0.0054	0.00614																																																															
項 目	予測値	環境保全目標	適合性																																																															
二酸化硫黄	0.00102	0.04 以下	適合																																																															
二酸化窒素	0.0141	0.04 以下	適合																																																															
浮遊粒子状物質	0.0330	0.1 以下	適合																																																															
塩化水素	0.0000137	0.02 以下	適合																																																															
ダイオキシン類	0.00614	0.6 以下	適合																																																															

以 上